

保護する生き物を探る児童たち＝牛久市で



荒れ果てた谷津田にがく然…

児童が再生計画 市長を動かす

牛久の神谷小隣、来月復活

牛久市立神谷小学校（染谷郁夫校長、七百二十人の児童が、学校に隣接する谷津田を自分たちで調査。授業に招いた池辺勝幸市長に谷津田再生事業として提案した。児童たちの願いは実現。来月中旬には、メダカが泳ぎ回る昔ながらの里山風景が戻っている。

（坂人基之）

同校では、総合学習の時間に自然コースと歴史コースを設定。自然コースでは、出前授業を実施している特定非営利活動法人（NPO法人）「アサザ基金」の協力で、校内のビオトープや谷津田で生き物の観察などの学習が続けてきた。

昨年度、谷津田を調査したに招待。「つぎつぎと注文が出

まして…」と市長が迷った。ほど熱心に谷津田再生を訴えた。提案は「里山の文化と景観を残したまちづくり」を進める同市長の政策とも一致、具体化されることになった。

再生される谷津田は広さ九千八百平方メートル。工事内容は、谷津田の水を隣接する結東川に落とす水路を整備、残土を除去して田んぼを拡張。生き物が行き来できるように水路には傾斜、四角形の池の縁は丸く削るなど、児童のアイデアがいったい。

児童らは、工事前の今月十八日、生き物を保護。メダカやモツゴ、コイやフナ、アメリカザリガニを校内のビオトープに収容した。重機による工事は終了。二月中旬には、避難先の生き物も完成した谷津田の池や水路に戻る。

県庁

月曜

筑城

2007年(平成19年)1月29日 月曜日

牛久・神谷小

5年生提案 谷津田再生

この再生事業は、総合学習が基になっている。アサザ基金が市内のNPO法人アサザ基金（飯島博代表）にある池や流込河川の改良、田んぼの復元などの工事を行う。

染谷校長は「NPOやPTA、行政などの支援にも恵まれ、素晴らしい学習ができた。次の学年につないでいきたい」と話している。

（黒羽根勝弘）

牛久市立神谷小学校（染谷郁夫校長、児童720人）の5年生児童130人が市に提言した案に基づいた谷津田再生の工事が27日、完了した。同校隣の荒れ果てていた約9800平方メートルの谷津田は今後、ビオトープ（生物群の生息場所）として環境学習に活用される。



池改良、学習に活用

同市では二〇〇四年から、「学校ビオトープから始まるまちづくり」として、市内の小中学校十二校で参加型の学習を展開してきた。神谷小の5年生は、一年前から学校に隣接する谷津田を教材に学んできた。

児童らは「谷津田を流れる結東川を池に接続するにはどうしたらよいか」「米作りができる田んぼはどうしたら作れるか」などのテーマに沿って、谷津田再生に向けた設計図を作成し、市の環境フェスタで発表。池辺勝幸市長にも自分たちの思いを伝えた。

ゲストティーチャーとして児童とかかわってきたアサザ基金の向山玲衣さん（二九）は、「環境について児童たちは多くのことを学んできた。その知識と行動力には驚かされる」と話す。

アサザ基金のスタッフから谷津田の生物について学ぶ神谷小児童。今月18日、牛久市立神谷小隣の谷津田